

January 20, 2021

【前日の為替概況】ユーロドル、3日ぶり反発 独 ZEW 景況感指数が予想を上回る

19日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは3営業日ぶりに反発。終値は1.2129ドルと前営業日NY終値(1.2077ドル)と比べて0.0052ドル程度のユーロ高水準だった。欧州時間に発表された1月独ZEW景況感指数が予想を上回ったことが好感されて、NY市場でもユーロ買い・ドル売りが先行した。イタリアのコンテ内閣が議会で信任され、解散総選挙が回避されるとの観測が高まったことも相場の支援材料となり、23時30分前に一時1.2145ドルと日通し高値を付けた。なお、イタリア議会上院はこの日、コンテ内閣を信任したと伝わった。

ただ、現物の米国株相場が伸び悩んだうえ、欧州株相場がマイナス圏に沈むとリスク・オンのドル売りが後退。1時30分過ぎには一時1.2116ドル付近まで上げ幅を縮めた。ドイツがロックダウン(都市封鎖)措置を2月14日まで延長したことも相場の重し。

ドル円は反発。終値は103.90円と前営業日NY終値(103.69円)と比べて21銭程度のドル高水準だった。次期財務長官に指名されたジャネット・イエレン氏の承認公聴会を控えて、しばらくは104.00円を挟んだもみ合いが続いていたが、2時前に一時103.84円付近まで弱含んだ。高く始まった米国株が伸び悩んだうえ、欧州株が失速したことが相場の重しとなった。米長期金利が上昇幅を縮めたことも円買い・ドル売りを誘った。

なお、イエレン氏は米上院での公聴会で「追加経済対策について積極的に取り組む」と述べたほか、連邦債務の膨張については「パンデミックへの対応が最優先で、債務縮小は将来的な問題」などと指摘した。為替については「ドルおよびその他の通貨の価値は市場によって決定されるべき」「米国は経済的利益のためにドル安を求めない」と語った。もっとも、事前に報道で伝わっていたこともあって相場の反応は限られた。NY市場に限ればドル円の値幅は21銭程度と小さかった。

ユーロ円は8日ぶりに反発。終値は126.02円と前営業日NY終値(125.24円)と比べて78銭程度のユーロ高水準。予想を上回る独経済指標が好感されて、20時30分前に一時126.21円と日通し高値を付けたものの、NY時間に入るとじりじりと上値を切り下げた。欧州株の失速やドイツのロックダウン延長などが不安視されて、一時125.86円付近まで下押しした。

【本日の東京為替見通し】ドル円は材料探し変わらず、米新大統領就任前後のリスクには要警戒

本日のドル円もレンジ取引となるか。昨日は日経平均の上昇に連れて小高くなる場面もあったが、大きなレンジを作るような動きにはならなかった。他通貨と比較しても取引材料に欠けていることもあり、本日も大きなレンジを期待するのは難しそう。引き続き、米国を中心としたリスクの流れがどちらに傾くかを確かめながら、新たな方向性を探る展開となるだろう。

本日の最大のリスク要因は、残り20時間を切った第46代バイデン大統領の就任前後の動きとなる。まずは全米50州とワシントン特別区の全てで計画されているという、トランプ支持者や極右の暴動を無事に食い止められるかが注目される。1月6日の議事堂乱入は相場に与えた影響は限られたが、米国の混乱がこのまま続いた場合は中長期的なリスク要因として重くのしかかりそう。また、残り時間がわずかとなってはいるが、引き続きトランプ米大統領の動きも要警戒となる。昨日も、「国家安全上を理由に中国製のドローンの使用禁止」「欧州・ブラジルからの入国制限を26日から解除」と発表している。入国制限解除については、すぐに次期大統領報道官に予定されているサキ氏が「26日からの制限解除は行わない」と発言しているが、次期政権を混乱に陥れることを引き続き行う可能性もある。

国内情勢では日銀金融政策決定会合が本日から行われるが、産経新聞は「日銀は大規模な金融緩和策の長期化を見据えて、金融政策の点検に乗り出した」「上場投資信託(ETF)や国債の購入手法の見直しが検討される公算が大きい」と報じている。しかし、14日の日銀支店長会議で、黒田日銀総裁は新型コロナウイルスの影響で落ち込む国内景気について「引き続き厳しい状態にあるが、持ち直している」とし、先行きは改善基調をたどるという見解を示した。多くの国民の判断とはかなりかい離を感じるが、改善基調をたどっているとしている現状判断で、多くを期待するのは難しいか。

欧州通貨は、昨日は強含んで引けているが、このまま欧州通貨買いに戻るかはまだ定かではない。先週と比較しコンテ伊首相が上院でも信任されたことや、週末の独キリスト教民主同盟(CDU)の新党首選出

などが一定のユーロを支持する要因になったが、伊政権も不安定なままなことや、オランダの政局不安なども解決していない。当面は気迷い相場が続きそうだ。

なお、経済指標では12月の南アフリカ消費者物価指数（CPI）の発表は要注目となる。CPIが予想を下回れば、まだ極少数派ながら第3段階まで引き上げられた厳しい南アの規制強化により、明日の南ア準備銀行（SARB）の金融政策委員会（MPC）で利下げをするという予測が高まる可能性もある。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○日銀金融政策決定会合（1日目）

<海外>

- 08:30 ◇ 1月豪ウエストパック消費者信頼感指数
- 16:00 ◎ 12月英消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.2%／前年比0.5%）
- 16:00 ◎ 12月英CPIコア指数（予想：前年比1.3%）
- 16:00 ◇ 12月英小売物価指数（RPI、予想：前月比0.5%／前年比1.2%）
- 16:00 ◎ 12月英卸売物価指数（PPI、食品とエネルギーを除くコア指数）
- 16:00 ◇ 12月独生産者物価指数（PPI、予想：前月比0.3%）
- 17:00 ◎ 12月南アフリカ消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.2%／前年比3.1%）
- 19:00 ☆ 12月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）改定値（予想：前年比▲0.3%）
- 19:00 ☆ 12月ユーロ圏HICPコア改定値（予想：前年比0.2%）
- 21:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 22:30 ◎ 12月カナダCPI（予想：前月比横ばい／前年比1.0%）
- 24:00 ☆ カナダ銀行（BOC、中央銀行）、政策金利発表（予想：0.25%で据え置き）
- 24:00 ◎ 1月全米ホームビルダー協会（NAHB）住宅市場指数（予想：86）
- 21日 02:00 ◎ ベイリー英中銀（BOE）総裁、講演
- 21日 03:00 ◎ 米財務省、20年債入札
- 21日 06:00～ ☆ ブラジル中銀、政策金利発表（予想：2.00%で据え置き）
- 米大統領就任式

21日

<国内>

- 08:50 ◎ 12月貿易統計（通関ベース）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

- 09:30 ◎ 12月豪雇用統計（失業率／新規雇用者数）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

19 日 11:28 中国国家計画委員会
「今年急に金融政策を変更することはないだろう」
「金融政策は今年、苦戦している企業に必要な支援を提供する」

19 日 15:40 中国国家発展改革委員会高官
「中国は景気回復に必要な措置を講じ、政策の崖を回避した」

19 日 17:19 メルケル独首相
「都市封鎖(ロックダウン)を 2 月 15 日まで延期したい」

19 日 19:34 欧州経済研究センター(ZEW)
「都市封鎖(ロックダウン)により経済見通しは不透明だが、ドイツ経済は徐々に回復しつつある」

19 日 22:57 アラブ首長国連邦(UAE)エネルギー相
「石油需要は全般堅調であり、特に中国やインドの需要が好調」
「UAE の石油生産能力の向上と OPEC+メンバーとしての有り様に矛盾はない」

20 日 00:34 米財務省
「敵対者に対する制裁措置法(CAATSA)のもと、ロシアの法人や船舶に制裁を科す」

20 日 02:15 マコネル米共和党・上院院内総務
「6 日の議事堂での暴動はトランプ氏や他の影響力がある人々に扇動された」

20 日 02:34 カナダ政府高官
「米ファイザーによるカナダへの新型コロナワクチンの供給、今後 3 週間で大幅に減少」

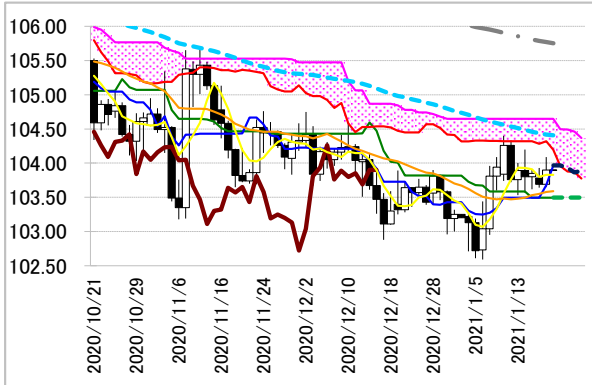
20 日 04:18 ホールデン英中銀金融政策委員会(MPC)委員
「英政府の借り入れ増額は必要な措置」
「政府債務が GDP 比 100%を超えたことは以前にもある」
「量的緩和を縮小する時期がきたならば、英中銀は徐々に実施していくだろう」

19 日 20:26 イエレン次期米財務長官
「追加経済支援策が無ければ、より長期の苦難に満ちたりセッション(景気後退)が続く可能性」
「リセッションから脱却するために、大規模な追加経済支援策が必要」(ウォール・ストリート・ジャーナル紙)

20 日 00:57
「経済的被害は甚大」
「我々ができる最も賢いことは、大きく行動すること」
「第 2 次景気対策に向けて活発に取り組む」
「中国は最も重要な、戦略的競合相手」
「米国は中国の虐待的な行為に取り組む必要」
「気候変動は既存の脅威をもたらし、クリーンテクノロジーや再生可能エネルギー、電気自動車への投資を必要としている」
「ドルおよびその他の通貨の価値は市場によって決定されるべき」
「米国は経済的利益のためにドル安を求めない」
「競争力を高めるための意図的な為替レートの誘導は受け入れられない」
「2017 年の税制改革法の一部は富裕層と大企業のために廃止されるべきであると確信」
「バイデン次期大統領はパンデミック下での増税を望まず」
「ある時点でキャピタルゲインは課税されるべきだと思う」
「50 年債について検討するだろう」
20 日 02:44
「気候変動は資産価格に大きな変化をもたらす可能性」
「低金利は長期間続きそうだ」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

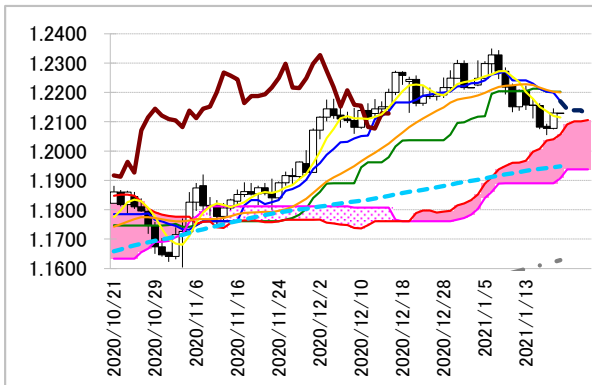


<ドル円＝転換線付近で底堅くし、104 円回復>

上影小陽線引け。上昇する一目均衡表・転換線付近で底堅さを示し、14 日以来の 104 円回復となった。

本日 103.97 円へ上昇する転換線を下回り、調整の下押しが進む可能性もある。だが、まだ買い示唆へ転じていない一目・遅行スパンは、今日明日にも同指標付近のローソク足を上回って買いサインを点灯しそう。下限が 104.20 円の雲近辺で少し動きは滞るかもしれないが、やがて買い地合いを強め、雲の抵抗へ挑むことになるだろう。

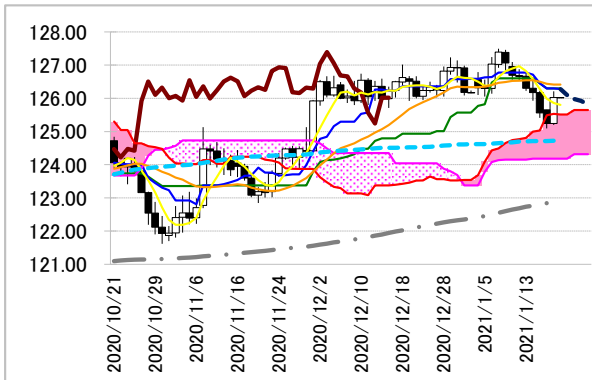
レジスタンス 1	104.40(1/11 高値)
前日終値	103.90
サポート 1	103.50(日足一目均衡表・基準線)
サポート 2	102.95(1/7 安値)



<ユーロドル＝低下中の転換線が重し>

陽線引け。下値に控える一目均衡表・雲の上限へ近づいたが下げ渋り、5 日移動平均線付近へ戻した。本日 1.2114 ドル前後で推移する 5 日線は低下中だが、強い抵抗にならないとみる。しかし、低下中の一目・転換線付近では上昇が重くなりそう。伸び悩んで再び雲を試す展開も想定しておきたい。

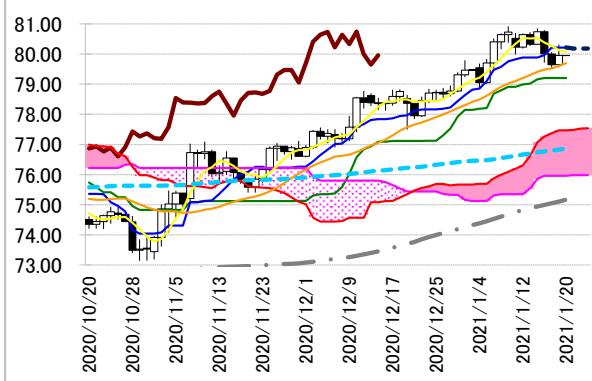
レジスタンス 1	1.2170(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.2129
サポート 1	1.2057(日足一目均衡表・雲の上限)



<ユーロ円＝日柄を味方に転換線をこなすか>

上影陽線引け。上限を切り上げる一目均衡表・雲の中で下げ渋り、126.29 円で重なっていた一目・基準線と転換線の手前まで上昇した。低下の流れ再開が見込まれる転換線は上伸の障害となるが、現水準の相場を維持できれば、日柄の経過とともに同線を上回ることができる。下押ししても雲がサポートになると考えられ、次第に上値の 21 日移動平均線を試す展開へ移行するとみる。

レジスタンス 1	126.41(21 日移動平均線)
前日終値	126.02
サポート 1	125.51(日足一目均衡表・雲の上限)



<豪ドル円＝転換線は明日にも低下、戻り鈍くしそう>

上影小陽線引け。一目均衡表・転換線 80.22 円を割り込んで地合いを弱めたものの、21 日移動平均線付近で下げ渋った。一時は転換線を回復したものの、その水準に定着できなかった。転換線は頭打ちとなり明日には水準を切り下げ始める見込み。抵抗としての重みが増し、戻りをさらに鈍らせそう。79.70 円前後へ上昇した 21 日線を割り込む展開もありそうだ。

レジスタンス 1	80.34(1/14-18 下落幅の 61.8%戻し)
前日終値	79.96
サポート 1	79.51(1/18 安値)

